

欧州をはじめ、米国や日本、今や国籍を問わず誰もがCSR（企業の社会的責任）というキャッチフレーズについて口にするようになってきています。CSRという概念には色々な側面が幅広く含まれ、リスクマネジメントツールとして、或いは、企業の公的イメージを良くするために使われています。しかし、多様な側面がゆえ、CSRの核心とは何であるのか、定義も個々の企業や国によって大きく異なっているのが現状です。

CSRについて互いに知識を共有し合い、理解を深めるため、テュフ ラインランド ジャパン（株）とドイツ-日本研究所は、共同ワークショップを開催いたします。主な目的は、様々な地域の傾向や活動を明らかにし、CSR活動推進の立役者は誰なのか明確にすることです。地域ごとの注力点やCSR活動内容における差異が見出されるでしょう。国籍や学識経験の異なる参加者と実業界からの参加者に集って頂き、現在の問題点及び将来への展望について自由な意見交換を行いたいと思います。例えば、CSRの一環として行われている活動の例や、いかにCSRで営利・非営利組織双方の効率を上げられるか、或いは、CSRの測定を行うことによりいかに信頼度が向上するかなどのお話合いができるでしょう。

このワークショップは、非公開のイベントであり、参加者は実践経験に関する情報交換を希望する個人または企業の代表者から成る少人数のグループに限られます。

日時は、**2008年11月12日（終日）**、場所は、**東京のドイツ-日本研究所（最終頁参照）**です。学識経験者、実業家、お国柄の違う方々の集いの場となれば幸いです。簡単なプレゼンテーションに続き、意見交換や経験交換、最適実行例などについて幅広く討議を行います。

時間	議題	講演者	
10:00-10:30	★ 挨拶と紹介	ロイツォーニ氏 コルハツァ博士	テュフラインランド ジャパン(株) ドイツ-日本研究所
15分	★ 日本のCSR; その歴史的な考え方について	谷本寛治 教授	一橋大学 大学院
15分	★ 比較・展望 - 社会科学者の視点	アレビンガー-タルコット 教授	ベルリン自由大学
15分	★ CSRを意識している企業の実績の方が、実際優れているか？ ードイツ、オーストリア、日本の企業を参考に検証	マールツ博士	オーストリア 商工会議所
<b>11:15-11:30</b>	<b>休憩 (15分)</b>		
15分	★ 人口構成が変動する時代のCSRについて	コルハツァ博士	ドイツ-日本研究所
15分	★ Henkel 社における持続可能性	グリュンシュロス氏	ヘンケルジャパン株式会社
15分	★ 国際社会の約束「ミレニアム開発目標」の達成に協力	松崎稔氏	オリンパス株式会社
15分	★ 『企業の社会的責任』 ～ キヤノンマーケティングジャパングループ ～	河口洋徳氏	キヤノンマーケティングジャパン 株式会社
<b>12:30-13:30</b>	<b>昼休み (60分)</b>		
15分	★ NECグループのCSRの取り組み	鈴木均氏	日本電気株式会社
15分	★ 社会革新のレンズを通して見た多様性 - ステークホルダーとの強調による価値の創造	ペダーセン氏	株式会社新生銀行
15分	★ ボランティア委員会の分析	ウィリアム・ヴァン・ オルスタイン氏	ドレスター・クワイート 証券会社

14:15-14:45	休憩(30分)		
15分	★ CSRは測定できるか?	パーゲルス氏	テュフラインランド ジャパン(株)
15分	★ 日産 CSR マネジメント手法	スロール氏	日産自動車株式会社
15:15-15:30	休憩(15分)		
120分	★ 発表されたトピックの議論	全員	
17:30	ワークショップ終了 - 会食 (ビュッフェ)		

### 主催者の紹介

#### TUV Rheinland Group (テュフ ラインランド グループ)

テュフ ラインランド グループは、検査・認証サービスをグローバルに展開している世界有数の企業。1872年の設立以来、安全で持続可能な社会の発展を企業目標および基本理念として、人・技術・環境の協調に関するさまざまな課題へ取り組み、独立かつ中立である第三者の専門的立場で、人と環境が調和する未来のため長年取り組んでいる。また、CSRの重要性を認識し、お客様やパートナー支援のため、環境や社会と調和しつつ持続的発展を確かなものにするソリューションを提供。

[www.tuv.com](http://www.tuv.com)

[www.tuv-star.com](http://www.tuv-star.com)

#### German Institute for Japanese Studies (ドイツ-日本研究所)

ドイツ-日本研究所(DIJ)は、1988年、東京に開設され、純然たる学術研究のための機関としてドイツの海外学術研究所の長い伝統を継承。ドイツ連邦政府の出資によるドイツ海外研究所財団 **Stiftung Deutsche Geisteswissenschaftliche Institute im Ausland (DGIA)** に運営されている。DIJの目的は、現代日本の文化、社会、経済、日独交流史等の研究を通して相互理解を深めるための一翼を担い、研究の成果を通してドイツにおける日本に関連した研究の発展に寄与するとともに、将来に向けて若い研究者を育成していくことにある。また、当研究所は「現地」における日本研究センターのひとつの理解から、世界中の日本研究者達との緊密な情報交換の場となるよう努めている。

[www.dijtokyo.org](http://www.dijtokyo.org)

### 講師紹介(敬称略)

#### 谷本寛治

一橋大学 大学院 教授 (商業、マネジメント)。経営学博士。

#### ベレーナ ブレヒンガー-タルコット

ベルリン自由大学 東アジア研究所 日本政治学・政治経済学 教授。ミュンヘン大学で日本学修士号及び政治学博士号を取得。ドイツ出身。7年に亘る日本滞在中5年間を東京のドイツ-日本研究所 研究員として、後に副所長として活動。ミュンヘン、ミュンスター及び東京の大学で講師を務める。2004年にベルリン自由大学教授陣に加わる以前は、ハーバード大学の日米関係博士研究員及び米国ハミルトン・カレッジ政治学准教授。調査研究対象には日本やアジアの政治学及び官民関係が含まれる。現在日本のCSRに関する比較・展望についてのプロジェクトを展開中。

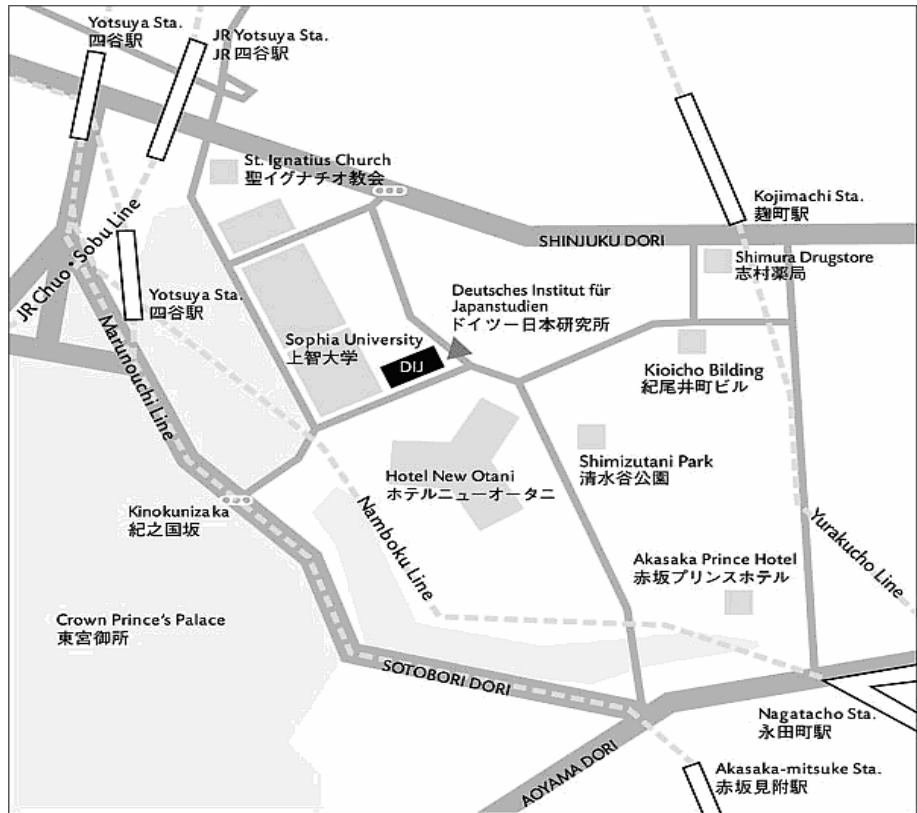
#### 鈴木均

日本電気株式会社 CSR 推進本部 CS推進部長兼CSR推進室長。NECグループのCSRへの取り組み推進を統括。現在、「途上国のデジタルデバйд解消に向けた事業活動」の推進に取り組んでいる。

<p><b>カロリーナ グリュンシュロス</b> 横浜のヘンケル ジャパン（株）所属。現在、“CSR Policy Modeling of European companies in Japan as a Strategic Tool”（戦略ツールとしての在日欧州企業CSR政策モデリング）という論文に取り組んでいる。2006年に経営学及び経済学修士号を取得後、博士研究員としてデュッセルドルフ大学で企業環境マネジメントの講座を担当。</p>
<p><b>サイモン スプロール</b> 日産自動車株式会社、執行役員。グローバル広報・CSR・IR本部。</p>
<p><b>ウィリアム・ヴァン・オルスタイン</b> ドレスナー・クライノート証券会社 アジア パシフィック 営業部長 マネージング ディレクター ドレスナー・クライノート証券会社 ボランティア委員会の共同議長。アジアの証券業界における経験は20年以上。</p>
<p><b>トム ペダーセン</b> 株式会社新生銀行 執行役 人事・コミュニケーション部門長 兼 チーフ ラーニング オフィサー 慶応義塾大学国際センターにおいて国際ビジネスの教鞭を取る。その後、モルガン・スタンレー 人事部のエグゼクティブ・ディレクターとして、リーダーシップ開発、人事採用、組織開発などにおいて、アジア地区全体のワークフォース・エフェクティブネスチームをリードする。シニア・マネジャーのためのトレーニング開発・育成を担当。 株式会社新生銀行においては人事・コミュニケーション部門長兼CLO（チーフ・ラーニング・オフィサー）として銀行の組織開発、研修、リーダー開発に重点的に取り組む。現在は、新生銀行及びそのグループ会社のために持続的な人材育成、戦略、企業に於ける文化統合など、今までの経験をフルに活かしたプロジェクトをリードしている。 <b>Saba</b> の顧問委員であり、また、Tokyo English Life Line（公共カウンセリング・サービス）や東京・アジアボランティア活動の理事会の一員でもある。</p>
<p><b>松崎稔</b> オリンパス株式会社 CSR 本部 CSR 推進部 課長 オリンパス光学工業（株）入社。19年に渡りカメラ開発に従事。97-03、米国駐在 R&amp;D シニアリエゾン兼シニアエンジニアリングマネージャー。ソーシャルマーケティングを本業で展開。04-05 マーケティング企画部長。グローバルスポンサーシップを担当。06-07 オリンパスイメージング（株）営業企画統括部 課長。07-7月より現職。</p>
<p><b>河口洋徳</b> キャノンマーケティングジャパン株式会社 理事 CSR 推進本部長 キャノンの国内マーケティング統括会社で、倫理コンプライアンス、情報セキュリティ、環境対応等を含むグループ CSR 活動の企画推進を行っている。</p>
<p><b>イェルク C. マーリッヒ</b> オーストリア 商工会議所 経済政策担当として活躍中。</p>
<p><b>フローリアン コールバッハ</b> ドイツ-日本研究所 研究員。人口構成の変化とビジネスとの関係について、CSRの観点を含めた調査・研究を行っている。</p>
<p><b>ロベルト ロレンツォーニ</b> テュフラインランドグループ日本法人の取締役 広報・ビジネス デベロップメント。同社新サービス（TUV Rheinland STAR*など）の創設者であり、第三者による監査プログラム普及促進、日本の省庁や認定機関との連絡責任者。国際認定機関フォーラム (IAF)、太平洋認定機関協力機構 (PAC) などの国際的委員会に積極的に参画。Asian Accredited Certification Body Federation の会長、PACの執行委員会メンバー、PAC国際相互承認協定 (MLA) 管理者も勤める。</p>
<p><b>マルコ パーゲルス</b> テュフラインランドジャパン。現在、国際サプライチェーンとそのCSRに関する分野に取り組んでおり、主として注目している点は、既存サービスのさらなる発展、企業評価の実施とアジアにおける人材育成。</p>

**所在地**

ドイツ-日本研究所  
〒102-0094  
東京都千代田区紀尾井町 7-1  
上智紀尾井坂ビル 2F  
電話: 03(3222)5077  
FAX: 03(3222)5420  
Ph. +81 (0)3 3222-5077  
Fax: +81 (0)3 3222-5420



**最寄り駅からDIJまでの道案内**

**赤坂見附（銀座線・丸の内線）より**

出口D（紀尾井町口）から弁慶橋を渡り、まっすぐ紀尾井町通りを信号まで進みます（ニューオータニが左手に、赤坂プリンスが右手に、その先に清水谷公園があります）。信号から左斜め前方に見える建物が上智紀尾井坂ビルです。  
エントランスはB3で、研究所は2階にあります。

**麹町（有楽町線）より**

出口2の階段を上り、左（四谷方向）に進み最初の角（志村薬局）を左に曲がり、T字路まで進みます（坂道約50メートル）。右に曲がり道なりにまっすぐ進み（約200メートル）その先の信号を渡ったところが上智紀尾井坂ビルです。エントランスはB3で、研究所は2階にあります。

**永田町（南北線）より**

出口9aから左にまっすぐ進みます。ファミリーマートの手前、左側の階段を下り、清水谷公園を抜けると紀尾井町通りです。右にまっすぐ信号まで進みます。信号から左斜め前方に見える建物が上智紀尾井坂ビルです。エントランスはB3で、研究所は2階にあります。半蔵門線の場合は、7番出口から弁慶橋に出て、銀座線・丸の内線と同じルートです。

**四谷駅（JR線・南北線・丸の内線）より**

麹町口から上智大学側に信号を渡り、麹町6丁目の信号まで進みます。写真店の角を右に曲がり、右手に上智大学東門を見ながら、細い坂道を道なりに下ります。下りきった先の信号右手側が上智紀尾井坂ビルです。エントランスはB3で、研究所は2階にあります。